

科目名	医療リスクマネジメント学特論			担当教員名	和佐 勝史、木内 淳子、大磯 義一郎	
該当DP	1	単位数	2単位	必修	配当年次	1年次・第2セメスター(通期)
曜日・時限	土曜日・2限目			教室	視聴覚大講義室	
授業概要	<p>国の医療安全政策と、これに関連して医療機関に何が要求されているかを理解する。さらに、医療事故が紛争化し訴訟に至るメカニズムを学ぶことで、紛争化の防止には医療機関及び医療者としてどのように行動すべきかを理解する。また、講義とグループディスカッションを組み合わせることで理解を深める。本講義には、「医療セーフティマネジメント学特論」と併せて、厚生労働省の医療安全管理者養成のための研修プログラム指針に準拠した内容が含まれている。</p>					
到達目標	<p>1) 医療リスクマネジメントおよび関連した法律、訴訟について説明できる。 2) 医療事故発生時の対応方法を理解し、説明できる。 3) 医療リスクマネジメントについての的確な助言ができる。</p>					
回	日程	見出し	内 容			実践的な授業方法
1	9/16	リスクマネジメントとは(和佐)	医療安全に関する過去の歴史を知ること、医療リスクマネジメントの意味を学ぶ。			
2	9/30	医療事故と法律(和佐)	医療事故に関する法律がどのように成立したかを知り、法律用語、法律と省令の違いを学ぶ。			
3	10/7	医療事故調査制度について(和佐)	医療事故調査制度について、その成立の経緯と具体的内容を学ぶ。特に、この制度では医療事故発生時から何を求めているかを学ぶ。			
4	10/14	医療事故と民事訴訟(和佐)	医療事故に関する民事裁判の現状を知るとともに、民事裁判の仕組みを理解する。民事裁判に関するデータの収集方法を学ぶ。			
5	10/21	医療事故と刑事訴訟(和佐)	医療事故に関する刑事訴訟の現状を知るとともに、刑事裁判の仕組みを理解する。刑事裁判に関するデータの収集方法を学ぶ。			
6	10/28	前半の総括(和佐)	前半の講義内容をもとに、重要な課題を整理、討議する。[グループディスカッション]			○
7	11/4	インフォームドコンセント(1)(和佐)	インフォームドコンセント(I.C.)の実施が、医療従事者・患者関係構築のために重要なプロセスであることを学ぶ。			
8	11/11	インフォームドコンセント(2)(和佐)	実際の説明義務違反を問われた判例をもとに、I.C.で要求されている説明の内容、その状況における正しい対応を学ぶ。[グループディスカッション]			○
9	12/2	コンフリクトマネジメント(木内)	クレームに対する基本的知識を習得し、患者対応を学ぶ。[ロールプレイ]			○
10	12/9	クレーム対応演習(木内)	患者・医療者・評価者に分かれてロールプレイを行う。[ロールプレイ]			○
11	12/16	医療における危機管理(大磯)	医療における危機管理の特殊性について理解する。[実務家教員による授業]			○
12	12/23	医療事故当事者への対応(大磯)	医療事故の当事者になった医療従事者への対応を学ぶ。[実務家教員による授業]			○
13	1/6	医療事故への初期対応(1)(和佐)	医療事故発生時に、医療者としてとるべき患者家族への対応を学ぶ。[グループディスカッション]			○
14	1/13	医療事故への初期対応(2)(和佐)	患者への説明と謝罪について、米国における考えを学ぶ。[グループディスカッション]			○
15	1/20	医療従事者に必要な法律知識(和佐)	実際の医療裁判の判例をもとに、判例に関する基本的知識および法律における考え方を学ぶ。[グループディスカッション]			○
キーワード		医療リスクマネジメント、医療事故、法律、初期対応、危機管理		履修条件	なし	
教材等	教科書(要事前購入)	教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。				
	参考書(任意購入)	担当教員が作成する配付資料				
成績評価方法(%) [評価のポイント]		①レポート(60%)、②ディスカッションへの参加・貢献度(40%) [①講義内容への理解度、②講義への積極的な参加]				
授業時間外で必要な学修		各講義終了後は復習を繰り返し、知識の定着を図ってください。				
学生へのメッセージ		それぞれの経験をもとに、臨床現場でのリスクマネジメントをいっしょに考えましょう。				

※ 授業の日程については変更する場合があります。